

観察してみよう 戦時中の暮らし

この写真は、館山市内にあった川名写真館が昭和 17 年（1942）に撮影したものです。
写っている内容を観察して、考えてみましょう。



写真をダウンロードして、タブレットなどで拡大してみよう！

- 問題 1 前列の右に座っている 2 人は足に布を巻いています。この名前は何でしょう？
役割も調べてみよう。 ※ヒント「ゲー○○」という名前です。

■ 問題 2 右に立っている 2 人が着ている着物は「モンペ」といい、戦時中に女性の服装として広まりました。その理由を考えてみましょう。

■ 問題 3 後ろの小屋に書いてある文字を読んでみましょう。
また、何をするとところか考えてみましょう。 ※ヒント 右から読みます。

■ 問題 4 その他、写真を観察して分かることや、現代と違うところを書いてみましょう。

こたえと解説

昭和 17 年（1942）12 月に館山市館山で撮影された写真で、「新井^{となりぐみ}隣組」というタイトルがついていました。「隣組」とは、近所の数軒で作られるグループで、写真に写るほとんどが女性なのは、若い男性が兵士として戦場に行っているためです。後ろの小屋には「監視^{かんしじょ}所」と書かれており、敵の飛行機をすぐに発見し、住民に知らせるための防空監視所として使用されていたと思われます。男性が布を足に巻くゲートルや、女性の着物をズボンのように作り替えたモンペは、どちらも動きやすく、空襲^{くうしゅう}のときに避難^{ひなん}しやすい「防空服装^{ぼうくうふくそう}」として推奨^{すいしょう}され、戦時中に日常着として広まりました。

（2022/2/18 作成）